

WS3-1

小児救急初療コース
(Triage & Actionコース・小児T&Aコース)

リーダー
茂木 恒俊(京都大学医療教育推進センター)
サブリーダー
牟田 広実(しいづかこども診療所)
古家 信介(豊中病院小児科)

このワークショップでは、こどもの全身状態やバイタルサインから緊急性や重症度が高い病児をトリアージし、初期対応としてはじめの数分間で何を行うべきか考えていただきます。また同時に、初期対応を施しながら要点をとらえたプレゼンテーションで医師へ相談できる能力を身につけることを目標としております。コースで扱う内容は、トリアージと有熱性けいれんのマネージメントを中心にしています。それぞれ15分程度の講義とその講義内容に合わせたロールプレイ(医師役または看護師役)を実際に行って頂きます。ロールプレイは6~7人の小グループ学習の形式で行い、ひとりひとりのレベルや労働環境に合わせ、無理なく楽しみながら学べるようにしておりますので安心ください。今回のワークショップでは最終的に、知識として知っているだけではなく、現場で知識を使って動けることを目指しています。なるべく多くの方に参加していただきたいということもあり、当ワークショップに初めて参加される方を優先的に登録させていただきます。また同一施設からの参加者も3名までとさせていただきます。

WSのタイプ	研修型	対象
定員	40名	制限なし
1施設からの定員	3名	
当日参加	空きがあれば可	
参加費	無料	

WS3-3

外来での事故防止を進めよう
~事故防止対策の企画・運営を学んでみませんか~

リーダー
及川 郁子(東京家政大学)
サブリーダー
川口 千鶴(順天堂大学保健看護学部)

これまで2年にわたって「外来での事故防止を学ぼう」というテーマで、外来で起こる事故予防について参加者と検討してきました。今回はそれを発展させ、参加者がワークショップで学んだことを職場でリーダー的役割を取りながら、事故防止対策を具体的に実践できる企画や運営方法について学ぶワークショップです。

方法としては、参加者の職場における事故防止対策や予防上の問題などについて事前調査を行います。当日は、事前調査を踏まえて事故防止対策の企画・運営方法の計画について話し合いを行います。また、これまで使用したKYT教材などを活用し、事故防止対策の方法を具体的にイメージできるようにします。教材の活用方法、実施時期、評価方法などを職場の現状に合わせて考え、計画書を作成してみませんか。外来の事故防止対策をどのように計画したらよいか悩んでいる方、リーダーとなって進めたい方、是非ご参加ください。

WSのタイプ	研修型	対象
定員	40名	看護師・看護助手・保育士・事務
1施設からの定員	1名	
当日参加	空きがあれば可	
参加費	無料	

WS3-2

服薬指導への取り組み16
「子どものお薬手帳を活用してみよう」

リーダー
高橋 華(はじめこどもクリニック)
サブリーダー
杉本 香織(シスター薬局)
高橋 めぐみ(はじめこどもクリニック)

服薬指導への取り組みその16「子どものお薬手帳を活用してみよう」災害に際して、お薬手帳の情報(必要な薬、副作用情報など)はとて大切で、日常診療でも、他科や他院、救急病院での治療経過や併用薬、副作用のチェックのために必須の情報が含まれています。しかし、お薬手帳を持ってこない、お薬手帳に薬局で出すシールを貼っていない、病院での診療の時や薬局で出さない、病院や医院ごとにお薬手帳を別にして持っているなど困ることがしばしばあります。今回はお薬手帳のあり方をまとめて問題点を検討し、母親にお薬手帳の大切さを理解してもらうための工夫、持参率を高めるための取り組み、服薬指導(服薬アドヒアランスの向上)につながる活用方法など検討します。事前アンケートを行い、問題点を取り上げますのでよろしくお願致します。東日本大震災から6年が経ちました。災害への備えは忘れられがちですが、いざという時に役に立つ情報であるお薬手帳をもっと活用するためのWSを目指します。

WSのタイプ	問題解決型	対象
定員	40名	制限なし
1施設からの定員	2名	
当日参加	可	
参加費	無料	

WS3-4

地域医療の中での小児科医の役割

リーダー
松浦 伸郎(松浦医院)
サブリーダー
川島 崇(川島内科クリニック)
及川 馨(及川医院)

高齢化社会を迎え地域の子供たちが減少し老人の増加が顕著である。このため小児科開業医や成人や高齢者を見ざるを得ない状況が生じていると思われる。このような状況の中でどのように小児科内科診療をやっていくか、将来の研修方法などについて悩む場合も少なくない。地域の小児人口が減少し高齢者が増えると本来の小児科診療が失われていくことも心配され、小児科の主体性をどのように維持していくかも考えさせられる。また診療の内容については地域の特異性に大きく依存する。小児科は都市部のみならずあらゆる地域で必要不可欠であるが、採算が取りうる状態でないとも継続はむづかしい。一方で夜間の対応や予防接種、園医・校医などでは内科医との連携も必要となってくる。ここではかかりつけ医としての地域の小児科医の役割について考えてみたい。到達目標は、1. 社会の高齢化に伴い地域の開業小児科医が増える将来の不安や現状の問題点を明らかにする。2. 小児科医が減少しても母子保健や学校保健にかかわる医師会事業の縮小は考えにくく、小児科医と他科特に関与している小児科医の果たす役割を考える。3. かかりつけ医、プライマリケア医、総合診療医、総合内科専門医、地域総合小児科医等や新専門医制度が社会にどう対応していくか考える。

WSのタイプ	問題解決型	対象
定員	30名	医師・医学部生・研修医
1施設からの定員	制限なし	
当日参加	空きがあれば可	
参加費	無料	

WS3-5

赤ちゃんの食物アレルギーが心配な保護者への
離乳食支援

リーダー
土屋 千枝(川井小児科クリニック)
サブリーダー
仲 佳代(認定NPO法人アレルギー支援ネットワーク)
岡田 恵利(認定NPO法人アレルギー支援ネットワーク)

食物アレルギーに対する食事指導は大きく変わりました。かつては「食物の除去」が中心でしたが、現在は「離乳食は遅らせないよう」「たとえ食物アレルギーがあっても症状が出ない範囲で食べさせること」が栄養指導の中心となっています。しかし、「離乳期に卵を食べると卵アレルギーになるのでは?」「卵アレルギーが怖くて卵は食べさせていません」というお母さんの不安の声をよく耳にします。「離乳食は何から、どのように始めたら良いのでしょうか?」などの相談を受けます。外来でこうした食物アレルギーが心配な保護者に適切な離乳食の進め方の助言が出来る事を目標とし、食物アレルギーのある乳幼児に対して栄養指導の経験豊富な管理栄養士さんと一緒に学びます。また、昆布や鷹豆からとった手作りスープや離乳期の卵の調理などを紹介し、味の違いを実感し、離乳食を食べてくれないという悩みにも助言が出来るようになりたいと考えています。

WSのタイプ	研修型	対象
定員	20名	看護師・看護助手・保育士・栄養士
1施設からの定員	1名	
当日参加	不可	
参加費	500円	

WS3-7

前向き子育てで十か条を考えよう

リーダー
藤田 一郎(福岡女学院大学人間関係学子ども発達学科)
サブリーダー
橋野 かの子(橋野こどもクリニック)

小児科外来では心身症や気になる子どもの行動で保護者から相談されることがあります。子育ての悩みについて話し合うことが役立つのですが、「前向き子育て十か条」を準備しておくと思えば対応できます。基本的な考え方と具体的な言葉添えたりフレーズを用意しておけば、時間がなくても保護者に渡してアドバイスできます。「前向き子育てプログラム・トリプルP」や「子育てハッピーアドバイス(明鏡大2書)」、参加者の経験事例を参考に、幼児、小学生、中学生向けの3グループに分かれて話し合い、前向き子育て十か条を考えます。最後に3つの十か条を共有して全員で意見交換をします。好ましい子育て方法は親子の状況によって十人十色かと思いますが、多くの親が共感できる前向きな言葉を考えましょう。話し合いの参考となるような子育て相談に関する経験事例や、あなたの子育て十か条があれば事前にお知らせください。

WSのタイプ	問題解決型	対象
定員	30名	制限なし
1施設からの定員	4名	
当日参加	空きがあれば可	
参加費	無料	

WS3-6

小児科外来における未成年への
禁煙支援をどうするか?

リーダー
野田 隆(のだ小児科医院)
サブリーダー
田嶋 雄一(ぼよぼよクリニック)
高橋 裕子(京都大学医学部健康情報学)

未成年の喫煙率が減少傾向にあることは喜ばしいが、依然として喫煙未成年は存在する。未成年喫煙は健康被害が大きくなることは医学的に検証されている。さらに未成年の行動の変化の引き金や受動喫煙のもとにもなりうることから、未成年喫煙の防止は従来から重要課題と認識されてきた。喫煙防止教育の重要性は自明であるが、喫煙する未成年への禁煙支援も等しく重要である。平成28年4月の保険改正で35歳未満の喫煙者の禁煙治療にも健康保険が適用されることになったが、教育現場での停学や始末書、謹慎処分など指導はなされても、医学的な支援の普及には至っていない。これに対して未成年の喫煙の実態・各地での未成年への禁煙支援の実例報告を通して、問診項目の共通化とニコチンパッチの使用法や喫煙欲求療法、保護者への対応等について参加者間で共有することを趣旨とする。

WSのタイプ	問題解決型	対象
定員	20名	制限なし
1施設からの定員	制限なし	
当日参加	空きがあれば可	
参加費	無料	

WS3-8

始めてみよう、小児漢方!
~アレルギー疾患に対する漢方薬~

リーダー
森 淳子(森こどもクリニック)
サブリーダー
坂崎 弘美(さかさきこどもクリニック)
木全 かおり(かわしまファミリークリニック)
木許 東(広瀬クリニック)

漢方薬を日常診療に取り入れている、またはこれから取り入れようと考えている医師を対象にしたWSです。これまで、上気道炎・胃腸炎、虚弱体質、発達障害をテーマに開催してきました。今回はアレルギー疾患を取り上げます。現在、アレルギー疾患はそれぞれのガイドラインが確立され、標準治療が広く浸透しています。しかし、ガイドライン通りに診療しても、患児のQOLという面で満足が得られないケースも有ります。このWSでは、気管支喘息、アレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎に対し、西洋医学的治療を補完する手段としての漢方薬の使い方を修得することを目的とします。実際の診療において、どのようなケースが漢方薬の適応になるのか、その際の処方選択の考え、実際の服薬指導について、症例をもとにディスカッションしながら学びます。漢方薬を上手に取り入れて、患児のQOL向上を目標に、ワンランク上の小児アレルギー診療を目指しましょう。

WSのタイプ	研修型	対象
定員	40名	医師
1施設からの定員	2名	
当日参加	空きがあれば可	
参加費	500円	

WS3-9

食物アレルギーに関する新しいエビデンス

リーダー
伊藤純子(虎の門病院 小児科)
サブリーダー
加地はるみ(加地医院)
富本和彦(とみもと小児科クリニック)
松本 勉(まつもと小児アレルギークリニック)

食物アレルギーへの対処法が大きく変わってきました。原因となりうるアレルゲンを厳格に除去するのではなく、むしろ早期から積極的に経口摂取した方が良いということになっています。また、経皮感作の重要性が指摘され、スキンケアが強調されるようになりました。どうしてこのような、以前とは違う治療方針がとられるようになったのでしょうか？また、どのような方法で行うとどれほどの効果が見られるのでしょうか？副作用などの問題は起きないのでしょうか？

このような疑問に答えを得る一つの方法は、診療方針を変える根拠になった文献(エビデンス)を実際に読んでみることです。しかも、結論だけでなく、対象や方法、分析のやり方などについて注意しながら読んでみる「批判的吟味」をすると、「実はこういうことだったのか」と胸に落ちることが多いのです。英語の論文抄読は一人ではうまく進みません。ポイントを押さえながらみんなで読んでみる「抄読会」を一度経験してみてください。今まで見えなかったものが見えてきて、明日からの診療にきっと役に立つでしょう。

WSのタイプ	研修型	対象
定員	30名	制限なし
1施設からの定員	制限なし	
当日参加	空きがあれば可	
参加費	無料	

WS3-11

クリニック院長の幸せなリタイアを目指して

リーダー
佐藤順一(上大岡こどもクリニック)
サブリーダー
矢嶋茂裕(矢嶋小児科小児循環器クリニック)
原 胡那(はらこどもクリニック)

クリニック院長のリタイアはいつの日か必ず訪れる。体の縮く限りでできるだけ長く考える院長がいる一方、人生の残りの時間をどのように過ごすかを考える中から、ある時期に診療の主体を他の医師に委ねようとする院長もいる。

またクリニックを閉じ、勤務医やこれまでとは異なる医療の道を選択することもあろう。

一方リタイアは院長だけの問題ではなく、家族・スタッフ・患者さんや地域の医療体制などに大きな影響を与えることであり、その決断には時間をかけた慎重さと周囲の理解が必要となる。

今回のWSでは参加者のリタイアの構想や経験などを語っていたで、各自の今後の選択肢のヒントとなることを目指したい。また継承や委譲などの方法や問題点についても実例を提示して整理していきたい。

WSのタイプ	問題解決型	対象
定員	40名	医師・ 医師の配偶者
1施設からの定員	制限なし	
当日参加	空きがあれば可	
参加費	無料	

WS3-10

みんなが笑顔になれる母乳育児支援
～それぞれの母子のつがいを活かして支援する小児科外来に～

リーダー
江田明日香(医師)(かろかも藤沢クリニック)
サブリーダー (IBCLC:国際認定ラクテーション・コンサルタントの略称)
伊藤敦典(助産師 IBCLC)(ひだまりクリニック)
榎本宏枝(助産師 IBCLC)(かじもとこどもクリニック)
栗原賢輔(中川志穂(助産師 IBCLC)(かろかも藤沢クリニック)
古賀浩子(助産師 IBCLC)(古賀小児科)
三浦久子(助産師 IBCLC)(緑の森こどもクリニック)
吉澤志麻(看護師 IBCLC)(さくざとファミリークリニック)

小児科外来では、母親から様々な相談が寄せられます。「赤ちゃんの体重が増えない」、「適切な授乳方法がわからない」、「母乳や人工乳が足りていないのかも」、「乳首が痛い」など、授乳に関する相談が多く見受けられます。

このWSでは、母親自身が自信をもって育児ができるように、専門職だけでなく小児科外来のスタッフ全員がそれぞれに自信をもって対応するための母乳育児支援を学びます。

子どもの発育や発達を見守りながら母乳育児支援ができるのは、小児科外来の強みです。より多くの母子が安全に長く母乳育児(混合栄養も含めて)を楽しむためには、かかりつけ小児科からの適切な支援がとても重要です。

当日は最新の科学的情報を基礎にして、カウンセリングスキルを用いた母乳育児支援を学び、ロールプレイでその支援方法を体験します。お母さんと赤ちゃん、そして外来スタッフも、みんなが笑顔になれるよう、ともに学びましょう。

WSのタイプ	研修型	対象
定員	30名	制限なし
1施設からの定員	制限なし	
当日参加	空きがあれば可	
参加費	無料	

